



展示販売会 「澄む、くらす。—秋田の手仕事—」

7月16日から8月15日までの約1ヵ月間、銀座 伊東屋 K.Itoya 1F POPUP(東京都中央区)を会場に、展示販売会『澄む、くらす。—秋田の手仕事—』を開催した。この展示販売会は、これまで出展実績のない場所での開催により、首都圏生活者に対し、秋田の伝統工芸・秋田の作家による作品の知名度向上と新たな顧客開拓を目指すものである。

秋田県の職人が生み出す丁寧なものづくりは、その品質の高さや造形の美しさから根強いファンがいるものの、大量生産が難しいものが多く、特に大消費地である東京・関東では、他県の製品との競合もあり、知名度は決して高いとは言えない状況にある。

今回の販売会は国指定伝統工芸品と木工・陶器・金属・繊維などの個人作家作品を組み合わせて展示販売を行うことで、それぞれのファンが呼び水となり、今まで接触する機会がなかった方に知ってもらおう構成とした。

出展事業者は国指定伝統工芸品4産地組合と個人作家6者の合計10者。1か月の会期を前期と後期に分け、展示の入れ替えを行い、各期とも伝統工芸品と作家の商品を同じ空間で展示販売した。

銀座 伊東屋は、高級万年筆や生活雑貨を扱う老舗の文房具店。その顧客は道具へのこだわりと高い審美眼を持つ傾向が見受けられる。文房具店という、一見ものづくりとは関係がないように見える売り場だが、「注文していた額」を受け取りに来た女性が展示に惹きつけられ、在廊していた作家と会話を交わし、購入していくケースもあった。



今回の展示をきっかけに、銀座 伊東屋G.Itoyaで開催される期間限定イベント出展が決定したり、会期終了後に「伊東屋で見かけて」という新規受注があった出展事業者もおり、新たなニーズの発見やものづくりに対する自信につながったという前向きな声が多く聞かれた。

このように本展示販売会において、秋田の工芸品等を知っていただくことで、11月に開催される「KOUGEI EXPO in AKITA」に向けた弾みともなった。

今後もセンターでは、事業者の販路拡大や作り手自身のモチベーション向上につながる機会を創出していきたい。

■出展事業者 10者(秋田県内国指定伝統工芸品4者、個人作家6者)

	前期(5者)	後期(5者)
伝統工芸品	秋田杉桶樽協同組合 (秋田杉桶樽)	大館曲げわっぱ協同組合 (大館曲げわっぱ)
	秋田県漆器工業組合(川連漆器)	角館工芸協同組合(角館榊細工)
個人作家作品	佐藤木材容器(秋田杉大皿)	田村 一(青白磁の器)
	坂本 喜子(鍛金の装身具等)	渡邊 葵(海鼠釉の器)
	弥生屋 (注染のオリジナル浴衣・手ぬぐい等)	藤田 美帆 (かぎ針編みのアクセサリ)

